

## 報告

## ケンブリッジ雑感

仲 隆

Takashi Naka

九州産業大学情報科学部知能情報学科

Department of Intelligent Informatics, Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University  
naka@is.kyusan-u.ac.jp, <http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~naka/>

## 1. はじめに

昨年度の夏、イギリスのケンブリッジ大学での国外研修を許可され、2ヶ月間滞在 Department of Biochemistry の Guy C. Brown 博士と共同研究を行った。本稿はその簡単なレポートである。次章は滞在中に現地で書いたものである。

## 2. 現地から

7月15日(日)から2ヶ月の予定でイギリスのケンブリッジに国外研修で来ている。ケンブリッジはキーワードで表すと、理系の殿堂、パブのエール、自転車、ケム川のパンツ、ハリーポッターなカレッジ、メルヘンな家、フットパス、森、午後のティータイム、長い一日、寒い夏という感じになる。



図1 イーグル

図1の写真は通っている研究室の近くにあるイーグルというパブ。ここはかのワトソンとクリックがDNAの2重螺旋構造を発見する際に議論をしたという場所で、奥のほうにそのテーブルがある。普通に座れるので誕生日にそこでミーハーに記念撮影をした(図2)。先日の日曜はサンディ・ロースト目当てに夕方ビールを飲みに行ったのだが、隣のテーブルにかの有名なホーキング博士がご飯を食べていた。ケンブリッジの街は、基本的にレンガ造りで、すごく古い建物とものすごく古い建物からできている。ものすごく古いのは教会とかカレッジ。大き



図2 誕生日

な木も多く、散歩しているととても落ち着く。図3の

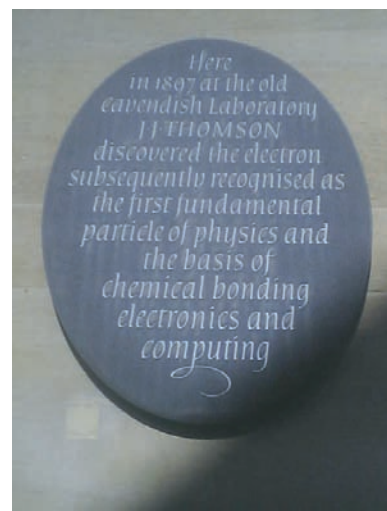


図3 トンプソン

写真は朝の散歩コースの建物の壁にある記念パネル(というのか?)。1897年にトンプソンが電子を発見したと書いてある。昔中学か高校の教科書にあったやつである。電子は物理化学にはもちろんのこと、コンピューティングにも重要な粒子であり、情報科学の歴史もここに始ま

れりみたいなものである。どうですか？とても理系な殿堂でしょう？

私が住んでいるのはトランピントンというところで、研究室までは歩くと30分ぐらい。自転車だと10分ぐらい。中古の自転車を購入しそれで通ってる（図4）。自転車



図4 自転車

はとても多い。違う方向に歩いて30分ぐらいのところに The Orchard というティーガーデンがある（図5）。orchard というのは果樹園という意味で林檎の木が植わっ



図5 ティーガーデン

ていて、その木陰で午後のお茶などを楽しむ。天気の良い週末に2回ほど訪れた。ブルックという詩人が住んでいたことで有名で、パートランド・ラッセルやウィットゲンシュタインなど多くの学者が愛した場所だそうである。ここからケンブリッジの中心の方までケム川沿いにとても気持ちのよいフットパスがある（図6）。ケム川（Cam River）というのはケンブリッジの中心を流れる川。パンツというのはそこで乗る浅いボート。竿で漕ぐ（図7）。私を呼んでくれたブラウン先生に漕ぎ方を伝授してもらった。ちなみにケンブリッジは Cambridge と書く。ケム川の橋？図8の写真はハリーポッターなカレッジのホール。クイーンズカレッジ。幽霊が飛んできそうでしょう。図9の写真はロンドンのキングズクロス駅に本当にあるプラットホーム9と3/4である。



図6 フットパス



図7 パンツ



図8 ホール



図 9 プラットホーム

到着した7月の中ごろは一番日の長いときで、朝は5時前から明るくなり夜は9時までは普通に昼間で10時ぐらいが夕方という感じであった。今は8月の終わり。ぐんぐん日が短くなっている。朝は6時で夜は8時ぐらい。今年は夏はとても寒かったのだけどその夏も終わり秋の気配である。貴重な国外研修も残り3週間。今日もエールを飲みに行かねば。

### 3. お わ り に

研究についても一応報告しておく、ブラウン先生と共同で細胞内活性タンパク質濃度分布に関する空間パタンの研究を行った。また、その解析手法として確率論的モデルについて集中的に勉強することができた。

この研修から既に1年が経ってしまった。ケンブリッジでは、大きな家の1間を間借りして生活していた。その家主、同居人、他の間借り人、私を研究室へ受け入れてくれたブラウン先生とその家族、毎日朝のティータイムで話しをした他の先生や研究室の学生たちを懐かしく思い出す。帰ってきてからすっかりイギリスかぶれになった私はそれまで愛飲していたコーヒーをやめミルクティーを飲んでいたのだけどイギリスから大量に買ってきた紅茶の葉もいつかなくなり、その習慣もいつの間にかもとに戻ってしまった。エール好きはまだ続いている。

### 謝 辞

最後に、このような貴重な経験をする機会を与えていただいたことに心から感謝します。